

現地公開資料 **高槻城二ノ丸跡の調査** 一城跡公園野球場内確認調査一

調査地 高槻市野見町1492-1 調査面積 約300㎡
 調査期間 平成22年5月25日～(継続中) 調査主体 高槻市教育委員会
 調査担当 西村恵祥 現地公開 平成22年7月24日午前10時～正午

1. はじめに

高槻市教育委員会では、高槻城二ノ丸跡の遺構分布状況を把握するため、城跡公園野球場において確認調査を実施しています。二ノ丸は高槻城主の御殿があったとされる一角です。

高槻城は14世紀前半には存在したとされますが、本格的な城館が整備されたのは戦国時代。織田信長の武将・和田惟政や、キリシタン大名・高山右近が城主になった16世紀後半です。元和三年(1617)には江戸幕府の修築により、三層の天守をそなえ高石垣や土居がめぐる東西510m、南北630mの近世城郭に生まれ変わりました。

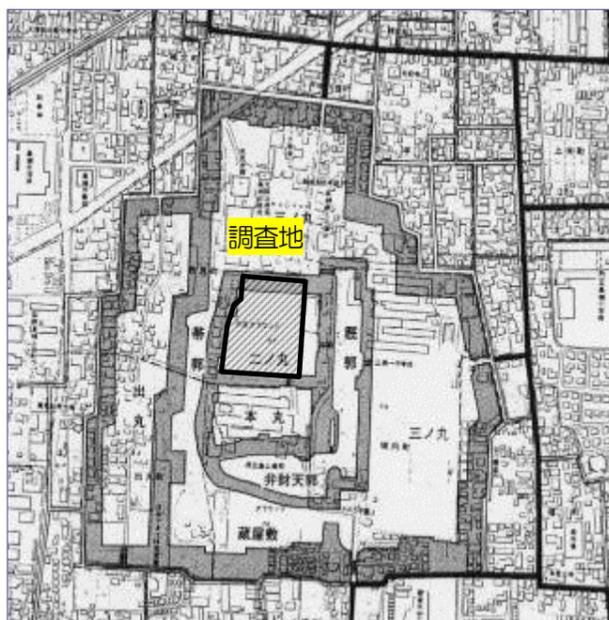


図1 調査位置図

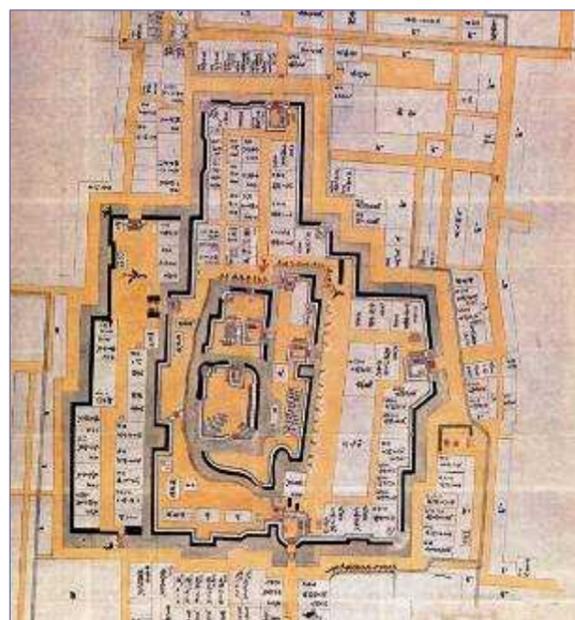


図2 高槻城絵図(17世紀後半) 仏日寺蔵

2. 検出遺構

〔1トレンチ〕東西幅5.5m×南北長32m

野球場北側に設定した南北トレンチです。近世高槻城二ノ丸の北内堀を検出するとともに、「高槻城絵図」(仏日寺蔵・17世紀後半)に記載のある、不明門(あかすのもん)の石垣基部を確認しました。北内堀については、二ノ丸側斜面と護岸の杭・横木を検出しました。堀幅は(南北)13.0m以上、深さ2.0m以上をはかります。

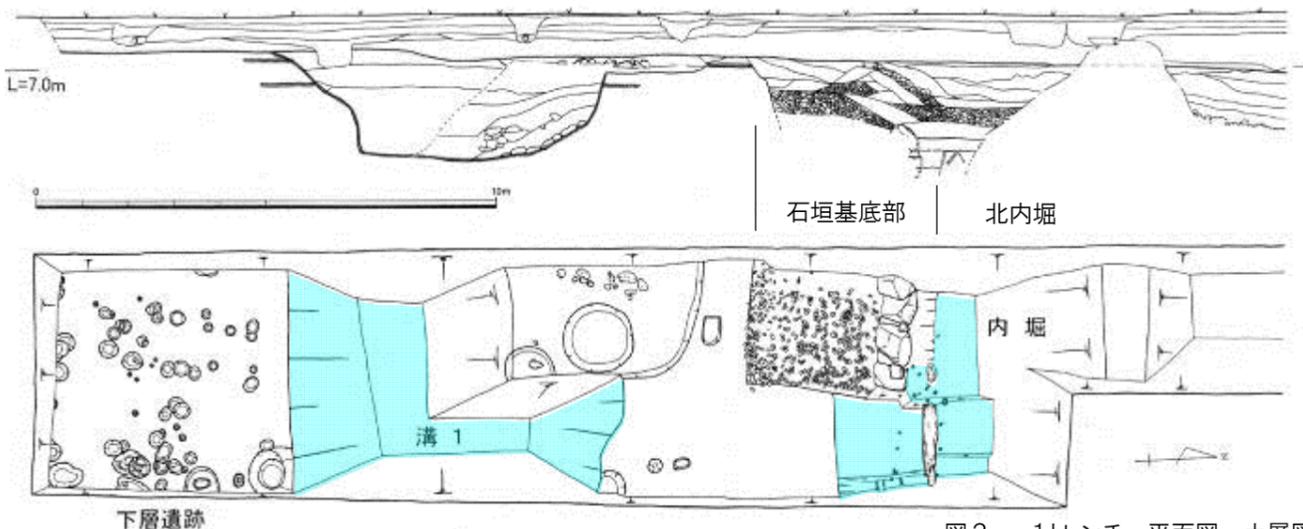


図3 1トレンチ 平面図・土層図



図4 トレンチ配置図

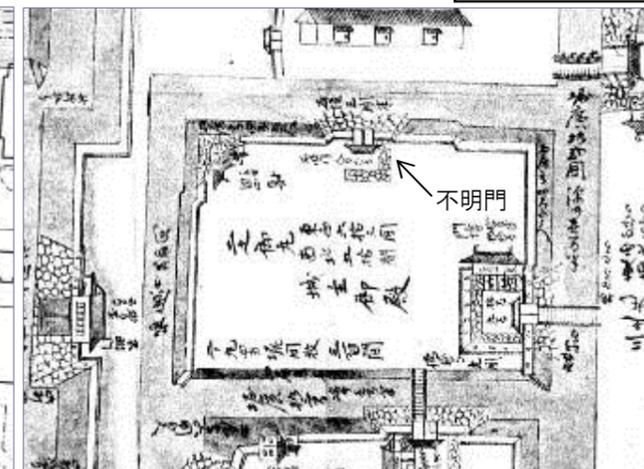


図5 町間入高槻絵図の二ノ丸部分(18世紀前半) 仏日寺蔵

不明門跡は絵図の記載に対応するものです。明治7(1874)年に高槻城は破却され、石垣石は運びだされて鉄道建設に転用されましたが、石垣の根固め石と裏込めの栗石がのこっていました。根固め石の石材は、本丸石垣などおなじく小豆島や六甲、笠置産の花崗岩を用いていました。

戦国時代高槻城の遺構としては溝1があります。内堀とおなじく東西方向に掘削された検出幅6.8m、深さ2.2mをはかる大規模な堀です。

このほか、室町時代(14世紀ごろ)の柱穴が密集し、さらに下層からは平安時代の遺構・遺物がみついています。こうしたことから、一帯には各時代の集落が広がっていたと考えられます。

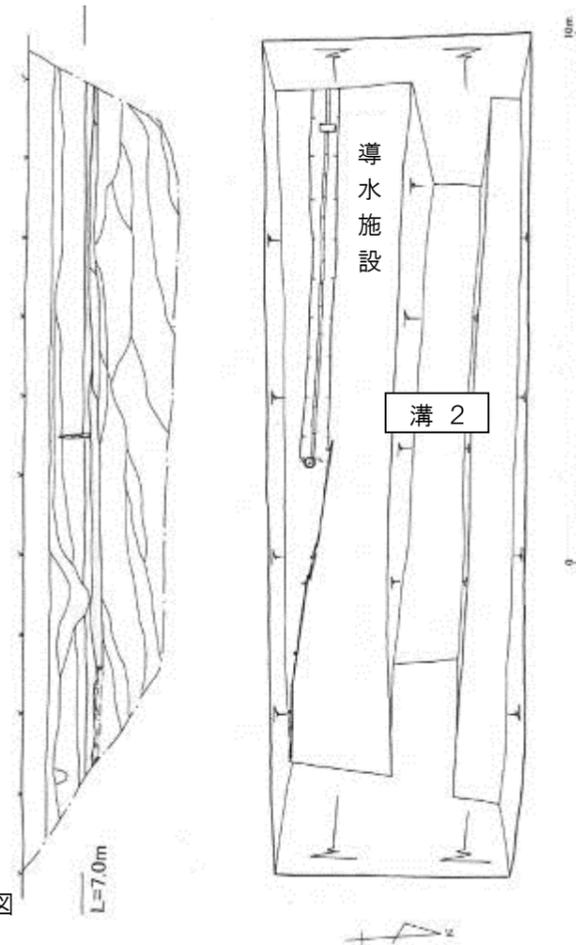
〔2トレンチ〕南北幅5m×東西長16m

野球場南西に設定した東西トレンチです。江戸時代の生活面は削平されていましたが、地中に埋設された導水施設が残っていました。

節を抜いた竹(竹樋管)を木製継ぎ手で継ぎ、終端は上方へ出して瓦質の管でくるんだもので、検出長は約7mをはかります。

戦国時代高槻城の遺構としては、溝2があります。2トレンチ全体を含む幅19m以上、深さ1.5m以上ある東西方向の立派な堀で、土塊で一気に埋め立てられていました。三ノ丸外堀跡で以前に確認した、元和三年(1617)の修築時に埋め立てられた高山右近期の堀と、まったくおなじ埋め方です。

図6 2トレンチ 平面図・土層図

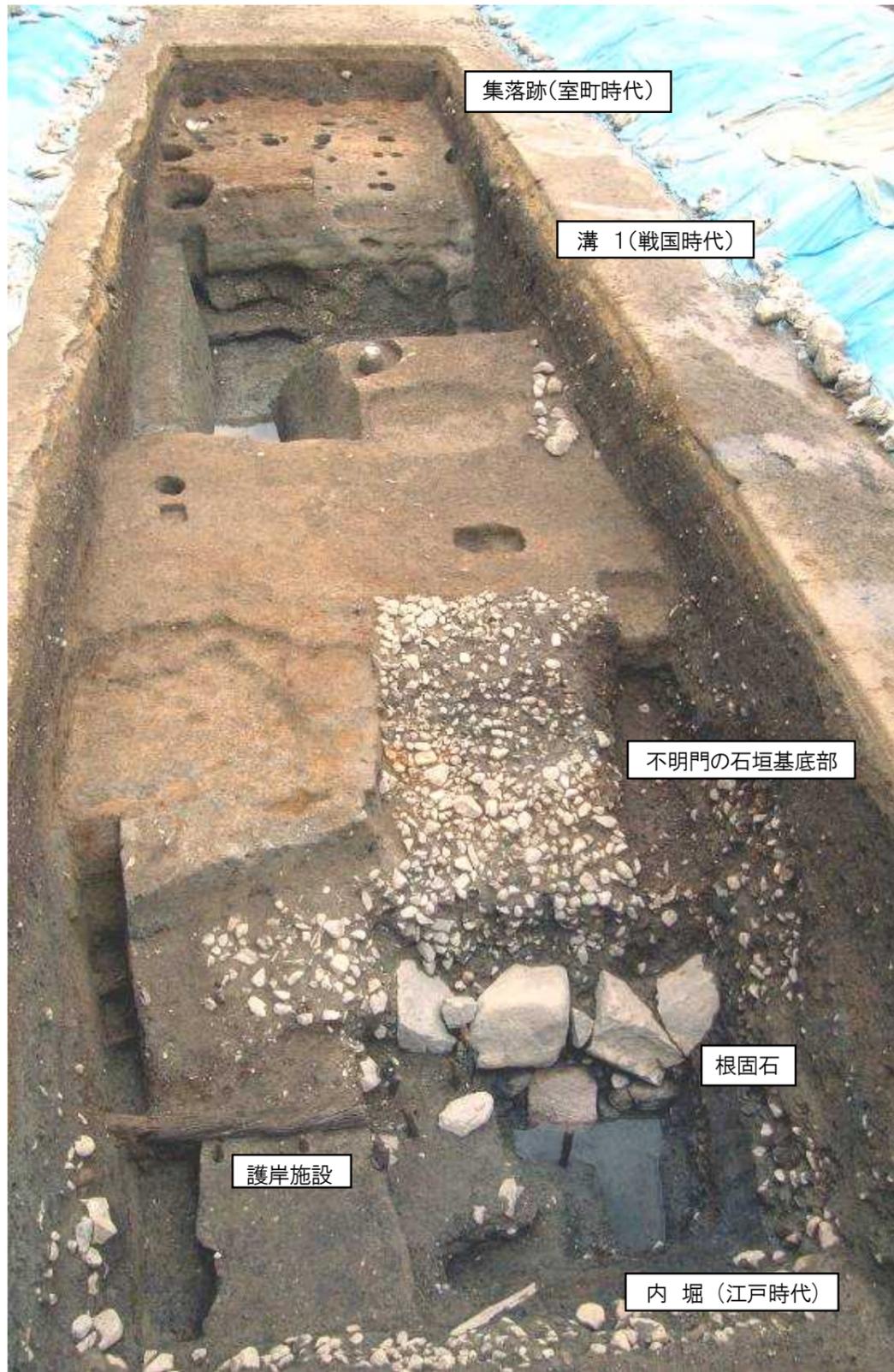


3. まとめ

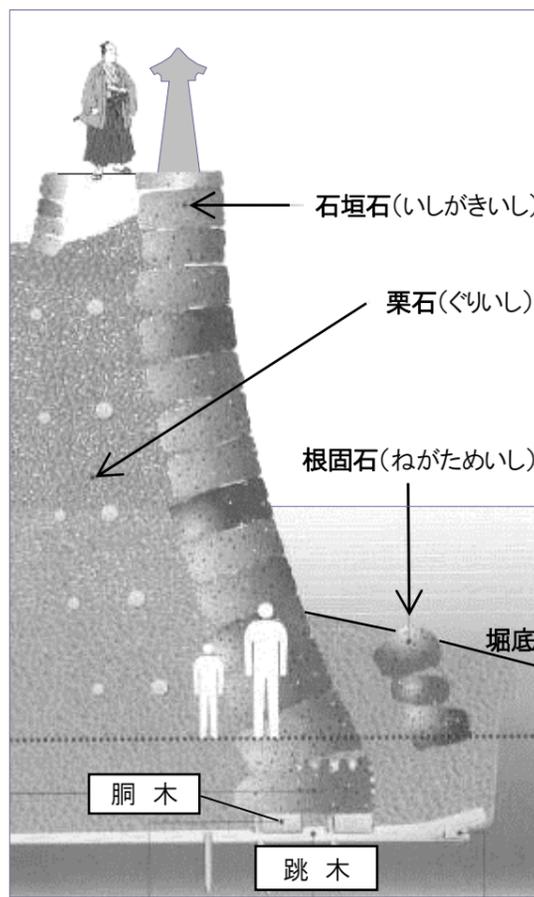
今回の確認調査では、戦国時代や江戸時代の高槻城について、あらたな発見がありました。

戦国時代の高槻城に関しては、2か所の調査区で1条ずつ、東西方向の堀跡を検出しました。とくに2トレンチの溝2は、埋め立て状況から、築城の名手・高山右近が築いた高槻城の遺構と考えられます。

江戸時代の高槻城については、高槻城絵図に記載のある二ノ丸不明門の正確な位置がはじめて判明しました。明治7年の破却以降、約1mの深さまでいったん削平を受けたため、残念ながら二ノ丸城主御殿の規模や間取りを知る手がかりとなる、礎石などは失われていました。しかし地下深く、不明門の石垣基部や内堀の底部、導水施設などの遺構が確認されたことにより、詳細が明らかでない御殿の概況を知る手掛かりを得た意義は大きいといえます。



① 1トレンチ全景(北側から)



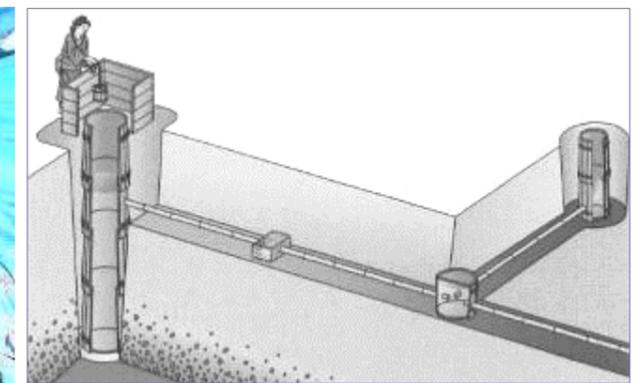
② 石垣の構造模式図(本丸)



③ 不明門の石垣基底部 1トレンチ(東側から)



④ 2トレンチ全景(西側から)



⑤ 導水施設のイメージ



⑥ 2トレンチ 導水施設の終端部